

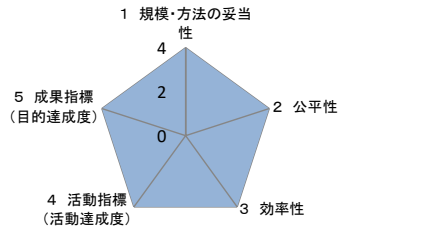
令和7年度 事務事業マネジメントシート		段階： 令和6年度実施事業に係る事務事業評価					1500	交通安全施設整備事業				建設構想部		道路保全課	
1 事業概要		中事業番号		892								所属コード		303000	
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X 推進	手段	意図（目的）			
大綱（取組）	V「暮らしやすいまちの未来」	3.6 11.2			○	○					見通しの悪い危険な交差点や防護柵等が必要な箇所にカーブミラーやガードレール等の交通安全施設の整備を行う。	交通安全施設の整備を行い、事故の無い安全・安心な生活環境をつくる。			
施策	2誰もが安心して快適に暮らせるまち														

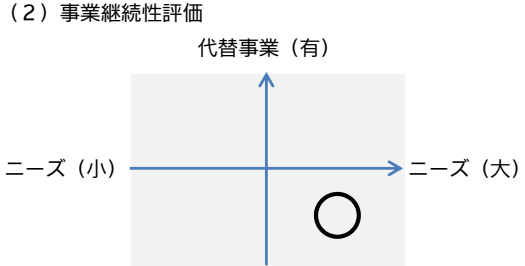
事業開始時周辺環境（背景）		現状周辺環境		今後周辺環境（予測）		住民意向分析	
交通安全の推進に伴い、交通安全対策が求められた。		令和5年に郡山市大平町で発生した交通死亡事故や全国各地で起きている痛ましい交通事故のニュース報道がされる中、市民が安心して暮らせる生活環境の実現のために交通安全対策の推進が求められ、町内会等からカーブ舗装やカーブミラー等の施設整備について多くの要望を受けている状況であり、これまで以上に危険交差点等の事故の発生の恐れがある箇所への交通安全施設の対策が求められている。		交通安全に対する市民ニーズに対応できるよう関係機関と連携・協奏により、事故防止のために有効な対策を効果的に実施し、更なる施設整備の充実と適正な維持管理が求められる。また、令和 4 年度のセーフコミュニティの再認証を受け、関係各課及び地域との連携・協奏により、市が参画を宣言した「ベビーファースト運動」の理念の下、子どもが安心して生まれ育つことができる、「ウェルビーイング都市の実現」に向けた活発な取り組みが求められる。		交通安全に関する市民の意識が高い状況であることから、これまで以上に関係する団体、機関、市民、行政が分野の垣根を越えた協働により予防活動を行う「セーフコミュニティ」の取り組みを展開している中において、ハード、ソフト両面で交通安全に対する施設や意識向上の充実を求められている。	

2 事業進捗等（指標等推移）			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2022年度（令和 4 年度）		2023年度（令和 5 年度）		2024年度（令和 6 年度）		2025年度（令和 7 年度）		2026年度（令和 8 年度）		2027年度		2028年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	中間指標 2021年度	最終指標 2025年度
対象指標	市民	人		324,586		322,515		319,680								
活動指標①	歩道整備	m	165	460	100	76	150	259	220		200		200	200		
活動指標②	カーブミラーの設置	基	50	96	50	82	90	108	130		100		100	100		
活動指標③	交通安全施設整備総件数	件	80	116	80	133	110	135	152		125		125	125		
成果指標①	事故発生件数	件		561		601	570	600	600		600		600	600	0	600
成果指標②	交通事故死者数	人		5		8	0	7	0		0		0	0	0	0
成果指標③	交通事故負傷者数	人		643		702	800	713	700		700		700	700	0	700
単位コスト（総コストから算出）	交通安全施設の整備1件あたりのコスト	千円		830		678		1,051	983		1,016		1,016	1,016		
単位コスト（所要一般財源から算出）	交通安全施設の整備1件あたりのコスト	千円		219		212		109	152		121		121	121		
事業費		千円		87,638		77,561		129,198	140,500		118,000		118,000	118,000		
人件費		千円		8,658		12,603		12,629	9,000		9,000		9,000	9,000		
歳出計（総事業費）		千円		96,296		90,164		141,827	149,500		127,000		127,000	127,000		
国・県支出金		千円		21,833		19,125		28,514	41,690		31,900		31,900	31,900		
市債		千円						58,100	44,200		40,000		40,000	40,000		
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円														
その他		千円		48,998		42,837		40,492	43,000		40,000		40,000	40,000		
一般財源等		千円		25,465		28,202		14,721	23,110		15,100		15,100	15,100		
歳入計		千円		96,296		90,164		141,827	152,000		127,000		127,000	127,000		
		実計区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続						

活動指標分析結果		成果指標分析結果		総事業費（事業費・人件費）分析結果	
・歩道補修は、目標どおりに実施できており、歩道の段差による通行者の事故等はなかった。 ・交通安全施設整備については、令和 5 年 1 月の交通死亡事故を受け緊急点検を実施し、対策を図った令和 5 年度の件数133件と同等の135件を整備した。		交通事故発生件数（人身事故）は、令和 5 年度の人数601人、令和 6 年度の人数600人と増加せず横這いであり、これまでのドライバーへの注意喚起を促す安全対策について、一定の効果があると考えられる。そのため、今後も交通事故の減少を目指し、交通安全施設の整備を実施していく。		【事業費】 事業費については、国の防災安全交付金が令和 5 年度 19,125千円から令和 6 年度28,514千円と増額して交付され、歩道整備等の整備延長が増えたことから、事業費が増加した。 【人件費】 交通安全施設の設置について、令和 5 年度から交通事故に対する対策として全ての箇所事前に交通管理者（公安委員会、警察）と協議が必要となり、令和 4 年度8,658千円に対し、令和 5 年度は12,603千円と、人件費が増加したが、令和 6 年度は12,629千円と横這いであった。	

3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価				
1 規模・方法の妥当性		4		
2 公平性		4		
3 効率性		4		
4 活動指標（活動達成度）		4		
5 成果指標（目的達成度）		4		

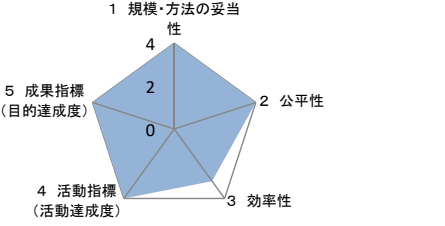


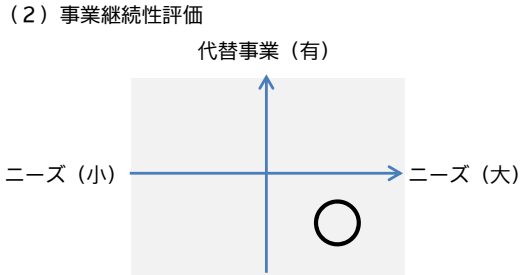
継続	一次評価コメント
これまでどおり危険な交差点などに設置する交通安全施設（カーブミラー等）や老朽化、バリアフリー化に対応した歩道の修繕を継続して整備することで、事故発生件数及び負傷者数の減少に成果があると考えられ、今後も交通管理者と連携しながら安全安心な道路環境の向上を図る。	

5レス	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）

気候変動対応	D X (デジタル市役所)	部局間協奏
		○

4 二次評価

(1) 事業手法評価				
1 規模・方法の妥当性		4		
2 公平性		4		
3 効率性		3		
4 活動指標（活動達成度）		4		
5 成果指標（目的達成度）		4		



継続	二次評価コメント
令和 6 年度は、地域から要望のあった箇所や事故多発箇所の安全対策のため、歩道整備、カーブミラーの設置、交通安全施設整備総件数のいずれも計画値を超える整備を行っており、着実な事業進捗が見られたところである。 一方、令和 6 年度における事故発生件数、交通事故死者数及び交通事故負傷者数のいずれも横ばい及び微増している状況にある。このため、安全対策についてはさらなる強化が求められるが、一定の効果があると考えられることから、引き続き取り組んでいく必要がある。 今後においても、交通安全対策の推進により、市民が安心して暮らすことのできる生活環境を実現するため、継続して事業を実施する。	

(参考) 令和 6 年度カイゼンのための行動計画